

美術教育の方針(六)

黒田清輝

▲美術は天然に基き學理に依て發達す

古來の歴史に徴するも美術は天然を基とし學理の應用に依て發達するものなり、希臘美術の發達したる所以は、人體の美を賞する習俗中に學理を應用するの知覺を備へたるが爲めなり、復興時代のフロランス派に線形の美の發達したるは、古典學と人體解剖學との開けたるに伴ひエニス派が色彩に長じたるは顔料の發明與つて力ありといふべく、近くは現代科學の發達と共に、歐洲繪畫の一新したるが如く、學理應用の程度如何は直ちに美術發達の程度を定む、新たなる美術の興るや新思想の表顯に適する學理の應用なかるべからず、此思想と學理と相待つて茲に始めて完全なる一種の技術は發達すべし

其國土は如何に美術に適するも、其國民に如何なる美術思想ありとも、美術は無為自然に勃興すべきにあらず、又其發達を永續すべきものにあらず、希臘の美術は如何に秀絶の作品を出したるも、以太利の繪畫が如何に進歩したるも、或る時代に至り新らしき學理を應用するの路窮りて遂に廢絶したるにあらずや、單に國土の佳良と國民の氣象とに依りて美術は進むべしとせば、今の希臘は何故に美術は生ぜざるや、又以太利の繪畫が今日振はざるは何ぞや、我邦の如きも亦然り、日本は山水の美あるを以て美術國なりといふを得ず、又日本は古來多くの佳作を出したりとて、永遠に美術の發達すべきを恃むべからず、同じく日本にありても時代によりて美術の性質は一

様ならず其程度にも等差あるを見れば、之を發達せしむる方向と程度との必ずしも同一ならざるを知るべし、今に方りて時勢の如何を察せず、開發の道を講ぜざれば如何に美術の素質良質ありと雖も、充分なる發達を見ざるのみならず、或は天成の美質をも全く失ふに至らんとす

▲我邦に適したるは從來の繪畫なり

されば如何なる繪畫が我邦に適し、如何なる方針が將來發達の路を開くに必要なるやと云ふに、從來の繪畫が最も日本の思想を表示するに適せりと答へんとす、然れども從來の描法を固守するは發達の氣運を進むるにあらずして、單に舊物を保存するのみ、保存は退歩の初めにして、退歩は壞滅の兆候なり、事物の發達は元來窮極あるべからざるに一たび發達したる技法にのみ依頼するは不可なり、古來藝術の最盛期に次で必ず衰運の來るものは新に進むべきの路塞りて、先進者の成法を摸倣するが爲めなり、今の時勢は世界競進の世にして、今の時代は道理の時代なり、日本の繪畫を開發して歐洲の藝術と競んには道理に基きたる新式の修養を爲んことを要す。

『二六新報』明治三十三年三月三〇日